

花束を贈呈されるたつみコータロー予定候補（1月7日）



## さあ、春闘本番 職場・住民要求の実現へ

維新政治は、府民の暮らし、福祉・医療・教育などを切り捨て、3年間つづくコロナ禍でも、カジノ・IR誘致と大型開発を優先しています。そして、コロナ感染死亡者が全国で最悪の事態をつくっています。

今こそ、維新政治を終わらせ、いのちと暮らし最優先の自治体、「全体の奉仕者」としての誇りとやりがいを持ち、安心して働き続けられる職場と労働条件を実現する大阪へ転換させましょう。



# #たつみコータローとつくる いのちとくらし最優先の大阪を

大阪自治労連現業評議会 議長 瀬戸 真一さん

(貝塚市職労)



## 現業職は

## 住民サービスの要

貝塚市の公立小学校で給食調理員をしている瀬戸さん。今年度、大阪自治労連現業評議会の議長に就任しました。

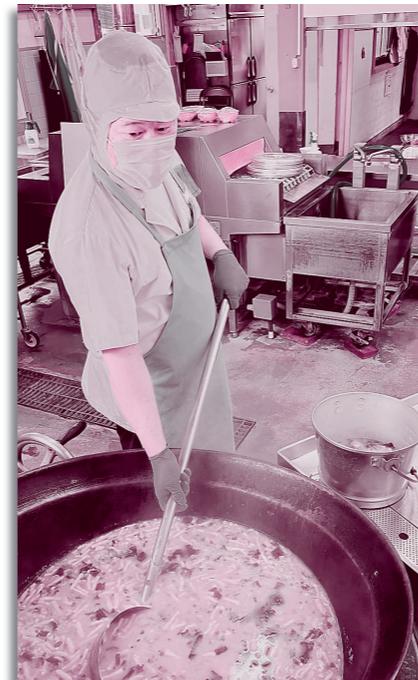
**組合に入ることが当然だった**

就職してすぐ、先輩から声をかけられ労働組合に入りました。当時は、組合に入るとは

当然だと思っていたため、様々な活動にも参加、2年目には貝塚市職労現業評議会の役員に、翌年には事務局長にと、あれよあれよという間に組合の中心で活動をしてきたとのことです。

**子どもたちに安全な給食を届けたい**

「時代に合わせて給食のメニ



子どもたちへ安心・安全な給食を届けるための奮闘しています

ューは変わっている。今の学校給食の良さを知ってもらいたい」と、「貝塚市の子どもの食と健康を守る会」を結成した瀬戸さん。民主団体や保護者会、地域の団体へ呼びかけて活動を始めました。

大人になると食べるものがない「給食」を、大人になってから食べることで、「どういう思いで給食を作り提供してきたのか」という調理員の思いを知ってもらえる機会になったと言います。まさに、労働組合と地域がつながった活動だと感じました。

**同じ職場で働く仲間にも給食の良さを知らせよう**

コロナ禍前までは、毎年1食200円で、市役所で働く職員を対象に、給食を作る仕事や、自校給食の大切さを伝えるた

め、夏休み時期に「試食会」を行っていました。

参加者からは、「時代によって食生活が変化していく中で、食育」という視点を大事にしてほしい」「作り手が見える、そしてあなたがたのものをあなたがたに提供していただける給食はともありがたいです。これは自校方式だからですすよね?」「アレルギーが増えているのでそれに対応するのがとても大変だと思いますが、子どもたちにとってみんなと一緒に食べる給食はとても大切だと思います」などの声が寄せられました。

**簡単に現業職の民間委託を許さないために**

昨年瀬戸さんは、長年つとめた貝塚市職労の書記長を降りることになりました。そのタイミングで「現業評議会の議長に」との声がかかりました。「誰かがしないと」という思いで、受けることにしましたと言います。

「現業職は、住民サービスの要だ」と瀬戸さん。にもかかわらず、簡単に委託されている現状に強い憤りを感じていると言います。「大阪の仲間と共に、直営の大切さを訴えていきたい」と、決意を語ってくれました。